中学校　資料名「背番号１０」（出典：「大切なこころ」を見つめ直して）

◆**実践校名**　泉南市立泉南中学校，泉南市立一丘中学校，熊取町立熊取北中学校，
岸和田市立土生中学校，岸和田市立野村中学校，泉大津市立小津中学校

◆**主題名**　周りの人々の善意や支えに感謝し、こたえようとする　**道徳の内容**　Ｂ－　感謝

◆**ねらい**　部員や監督、家族の支え等で今の自分があることに気づく主人公の道徳的変化を考えることを通して、周りの人々の善意や支えに感謝し、こたえようとする道徳的実践意欲を高める。

◎**中心的な発問**

深々と頭を下げながら、心の中で「僕」はどんなことを思っているのだろう。

◆**本時の展開**

	学習活動	発問と予想される子どもの反応	指導上の留意点及び評価
導入	◎背番号１０の意味を理解する。	背番号１０とは、何を意味するものですか。 ・野球ではキャプテン。（小学校） ・ベンチ入り。 ・レギュラーではない。（補欠） ・サッカーでは、中心選手。	○資料への方向付けをする。
展開	◎資料を読む。		○教師が範読する。
	◎医者にボールを投げないように言われ、家に帰るときの「僕」の気持ちを考える。	医者にボールを投げないように言われ、家に帰るとき、僕の心にどんなことが浮かんできたのだろう。 ・もう野球ができないんじゃないか。 ・もっと注意して野球をすればよかった。 ・みんなに迷惑をかけてしまう。 ・くやしい。	○甲子園に出るという夢やこれまでの努力してきたことが絶望的になってしまった「僕」の心に着目させたい。
	◎父に一喝された夜、いろんなことを考えて布団に入ってもなかなか寝付けなかった「僕」が次の日に、授業が終わるのを待ちかねて急いで部室に行ったときの気持ちを考える。	父に一喝された次の日に、授業が終わるのを待ちかねて急いで部室に行った僕は、どんなことを考えていたのだろう。 ・お父さんの一言で、最後まで野球をがんばろうと決意した。 ・自分にできることを、一生懸命やろう。 ・最後まであきらめずにがんばろう。 ・弱音を吐いている場合じゃない。 ・チームのために、がんばろう。	○父の言葉に対する「僕」の複雑な思いについて考え、前日とは違う「僕」の気持ちの変化に気づかせる。

	◎様々な人に支えられてがんばってこられた「僕」の感謝の気持ちを考える。	深々と頭を下げながら、心の中で「僕」はどんなことを思っているのだろう。 ・ついてきてくれてありがとう。 ・認めてくれてありがとう。 ・みんなの励ましに感謝をしたい。 ・野球を続けてきてよかった。 ・試合には出られないが、しっかり応援しよう。 ・お父さんの言葉があったから、ここまでやってこられた。	○周りの人々が支えてくれていたから今の自分があるということに気付いた「僕」の心情の変化を考えることを通して、感謝する気持ちと、応えようとする意欲を育てたい。
終末	◎本時の感想を記入する。	今日の授業で考えたことや感想を書こう。	○自分の生き方に重ねて考えられている感想を紹介し、道徳的価値観を深めていく。 ＜評価＞ ・授業の感想で、周りの人々の善意や支えに感謝し、こたえようとする道徳的実践意欲を高めている。 ・支え、おかげ、感謝、ありがとう、～のお返しになどのキーワードが入った授業の感想が書かれている。 （評価方法） ・板書 ・ワークシート

◆研究のまとめ

○授業実践について、チームとしてのまとめ

中心発問…「深々と頭を下げながら、心の中で『僕』はどんなことを思っているだろう。」

評価(ねらいを達成できていると判断したもの)

…周りの人々の善意や支えに感謝し、なおかつ、それに応えようとする主人公の気持ちに関した記述や発言がある。

評価方法…ワークシートへの記述および、発表

導入について

本教材の導入で、「背番号１０と聞いて何を思い浮かべるか。」など資料名を絡めた問いを行ったが、生徒の反応として「背番号１０」と聞いてもピンとこない様子が感じられた。

展開、中心発問について

今回、評価の基準(キーワード)を設定して授業を行ったが、授業の途中までは、「あきらめないこと」や「努力の大切さ」という意見が多く出た。また、中心発問では、「感謝」と「努力」が４：６くらいの割合で出てきた。また、その他に「申し訳ない。」という意見も多かった。

支援方法

中心発問を生徒に発言させていく中、「努力」という意見を持っている生徒に対し、「どうして努力ができたのか。」「どうして諦めずに頑張れたのか。」と聞き直した。そうすることで生徒たちは、チームメートがついてきてくれたことや、叱ってくれた父親の存在を思い出し、また、周りの支えに気付かせることで、終末に行った感想では「感謝」が大切だと気付く生徒が増えた。

課題

教師の力量で、キーワードが出るか出ないか分かれてしまう。主題、ねらい設定の意図を教師間で交流し、同じ方向に進めていくことができるよう情報を共有することが大切である。

○道徳の評価についての提言

【成果】

「感謝」というキーワードを設定することで、ねらいがはっきりした。授業者はねらいに到達しているのかを、ワークシートの感想や質問に対する答えによって判断することができた。また授業後、キーワードを発言した生徒について名簿に〇をつけ、それ以外でも深く考えたと思われる発言があれば〇をつけていくと、その時間の生徒の様子が一覧で把握することができる。そして内容項目ごとに記録を続けていくと、苦手な項目、得意な項目など様々な視点から、生徒の様子が見えやすくなる。通知票に記載するときも、この方法を取り入れていると、個々にあった所見を書くことができる。

【課題】

教師の技量によって伝わり方が異なるので、評価が難しくなる。また、いろんな意見を出して深く考えることが本来の道徳なのに、キーワードの設定をすることで発言を誘導してしまう可能性が出てくる。

キーワードそのものを発言していないがよい意見を出している生徒について、どのように評価をすればよいかあいまいになる。

【各校の実践の記録】

◆実施学年　（３年・２年）

◆評価を位置づけた授業実践の分析

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

＜方法＞

・ワークシートにおける感想から、ねらいに到達しているのか判断する。

＜支援について＞

・中心発問『深々と頭を下げながら、心の中で「僕」はどんなことを思っているのだろう。』に対して、自分が一生懸命頑張ったから結果が出たという「役割と責任」の内容項目に流れていきそうな時に、「僕の気持ちが高まったのはなぜか。」など追発問の仕方を工夫した。

・最後の感想では、「感謝」や「周りの人の支え」という内容が多かった。

○成果と課題

【成果】

・評価を位置づけることで、ねらいに到達しているのかどうか、感想を見てはっきりわかる。

・授業者がねらいを意識して授業を行っていたかが、わかる。

（クラスによって感想の量・内容が変わる）

【課題】

・授業者が設定したねらいとは異なる意見を出す生徒について、どう判断するかが難しい。

・キーワードを出させようと、生徒を誘導する授業になる可能性が出てくる。

実践校名（泉南市立泉南中学校）

◆**実施学年**　（３年）

◆**評価を位置づけた授業実践の分析**

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

＜評価の方法＞

授業中：「周りの人の支えに感謝する」等の表現が、生徒の発言に含まれているか。

授業後：ワークシートにおける中心発問に対する意見や感想を見て、「～のおかげ」「支えがあるから」「感謝」「～のお返しに」などのキーワードの記述があるか。

＜中心発問に対する生徒の様子＞

・途中までは、「諦めないこと」や「努力の大切さ」に目がいきがちだった。

・中心発問に対する意見、感想としては、「感謝すること」と「努力し諦めないこと」が４：６くらいの割合で出てきた。

・「どうして努力できたか。」、「どうして諦めずにがんばれたか。」と問い返すと、生徒たちは、チームメイトがついてきてくれたことや、叱ってくれた父親の存在を思い出したようだった。

・中心発問に対して生徒に積極的に発言させていくなかで、「努力」ということを改めて考えさせることで、どうして努力できたのかや、その努力の根底には周りの支えや励ましがあったことに気づかせることができた。そして、最後の感想を書かせる場面では、「感謝」が大切だと気づく生徒が増えた。

・感謝と同時に、「申し訳ない」という意見も３割くらいあった。
（ケガをしている自分がレギュラーになったから）

○成果と課題

●成果●

・キーワードを設定することで、授業後の評価がしやすい。

●課題●

・教師の授業力が必要。ねらいからずれることなく、たとえずれたとしても、教師の誘導などで内容項目の部分にまで深く切り込まなければ、生徒の評価ができなくなる。今回の「感謝」にしても、「努力することが大事」となってしまうと、生徒は一生懸命に考えてはいるが、ねらいには到達していないと言える。

・良い発言はするが、用紙を提出しない生徒の評価が難しくなる。授業者が、発言者とその内容をともに覚えておくことが必要になってくる。

◆**評価に用いた資料サンプル［各クラスのワークシート（発問４と感想部分）］**

１組

○キツイ言葉を言ったりしたのに、みんなが自分を認めてくれてとてもありがたい。努力を認めてくれたことに感謝。あのとき、一喝を入れてくれた父にも感謝。

○この話が、私の吹奏楽部のマーチングと重なって、泣きそうになりました。後悔ばかりが自分の心にあって、本当に苦しかったです。でも、私の所属している吹奏楽部は、マーチング大会だけではありません。いろいろな地域行事でも参加依頼して下さいます。私は、この行事の一つ一つを大切にしたいと思います。今、私には、できることがまだあります。胸をはって卒業できるように、頑張りたいです。

２組

○試合に出られない状態なのに、ベンチ入りのメンバーに入れてくれた。監督に感謝。

○甲子園に出るためにやってきたのに、頑張ってきたのにケガをしてしまった主人公は、とても残念だと思う。しかし、チームのために最善を尽くして、監督に背番号をもらえて、とても感謝していることが分かった。私も、日頃感謝しないといけないなと思った。そして、それは大切なことだと思った。

３組

○みんなが支えてくれたから、ここまでがんばれた。本当にありがとう。諦めなくてよかった。

○やっぱり、あきらめず努力した人は報われるんだなと思いました。このキャプテンはあきらめかけたけど、父親、チームメイト、監督などの支えがあったから頑張れたんだと思います。僕も、みんなに支えられたから頑張れたこともあったから、共感できた。これからは、僕も支えていく側になれたらいいなと思います。

４組

○（主人公の気持ちになって）この部に入れてよかった。うれしい。父への感謝。自分はチームの役に立てたと思う。自分のしていたことは、正しかったんだ。

○野球ができない悔しさは誰よりもあったと思うけど、それでも気持ちを切り替えて、みんなのために頑張る主人公がすごいと思った。これでこそキャプテンって思った。とってもしんどいときでこそ、普段見えなかったところが見えるようになるから、そこをもっと生かせばいいな。

５組

○（主人公の気持ちになって）野球を続けてよかったという気持ちと、自分を支えてくれたみんなへの感謝。

○部活で、ライトでのプレーが上手くいかんかったときに、ポジションを変わりたいって言ったら、止めてくれた。引退試合までライトでフル出場できたのはチームのおかげやと、今でも思う。

実践校名（泉南市立一丘中学校）

◆**実施学年**　（全学年）

◆**評価を位置づけた授業実践の分析**

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

＜方法＞

　ワークシートの中心発問や感想において、評価を行う。設定したキーワードが書かれているかどうかを評価する。

＜キーワード＞

「おかげ」「支え」「感謝」「ありがとう」「～のお返しに」など。

＜導入＞

・「背番号１０」の意味を理解していない生徒がいたので、写真等を用いて説明した。

・導入で「背番号１０」の意味を確認したので、資料内容の理解が早かった。

＜中心発問＞

・「みんながいたからここまでやってこられた。」、「監督が僕を認めてくれた。ありがたい。」、「お父さんの言葉がなかったらあきらめていた。」というような、「感謝」や「ありがとう」といったキーワードの入った発言が、生徒から出てきた。

・あきらめずにやってよかったなどの「努力」につながる意見も出てきた。班活動を行い、意見交流させることで多様な考えに触れ、子どもたち同士でねらいにせまることができた。

・努力のような意見が出てきたときに、「なぜ、そこまで努力することができたのか。」「あきらめなかったのは、なぜ。」などと追発問すれば、もう少し掘り下げて考え、ねらいにせまることができたのではないか。

＜感想＞

・中心発問に対して「努力」と書いていたが、感想では「感謝」に変わっている生徒もいた。

○成果と課題

＜成果＞

・評価を意識することで、教師自身がねらいを明確に持ち、授業を行うことができた。

・キーワードを設定したことで、授業後の評価がしやすくなった。

＜課題＞

・教師の力量や授業展開の仕方によって、ねらいへのせまり方に差が出てくる。

・ねらいからはずれているが、真剣に考えて書いている生徒の評価をどうするか。

・授業での生徒の発言や様子を観察し、記録しておくことや、生徒の生活態度を観察しておくことが大切である。

実践校名（熊取町立熊取北中学校）

◆**実施学年**　（３年）

◆**評価を位置づけた授業実践の分析**

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

【中心発問の場面の発言の様子や内容から】

・主人公の行動から、最初は「努力したから」や「前向きに物事をとらえて活動できた結果」等の発言が多かった。そこで、指導者から補足発問として、「周りの生徒が拍手していたが、どういう気持ちだったのだろう。」や「彼に対してどういう気持ちで拍手をしたのだろう。」と付け加えた。また、「それに対して彼は何を感じ取って深々と頭を下げたのか。」と掘り下げた。

・ケガをしてからの主人公の行動をチームメートが認め、感謝の意味を込めての拍手。そして、負傷しプレーができないのに背番号１０を渡され、チームのみんなに感謝の意味を込めて頭を下げる。このような主人公たちの人間関係『お互いの他人を思いやる行動』に気付いてくると、「感謝」や「ありがとう」、「他にもベンチに入りたい子がいるのに申し訳ない。」など、最後の文章や感想文では、普段の自分と照らし合わせて意見を書いた生徒が多かった。

【評価の方法】

・中心発問について、意見を自分の言葉でまとめることができたか。

・最後の感想から、今日の道徳のキーワードが出てきているか。

・友だちの発言や指導者の問いかけに対して、意見を言うことができたか。

○成果と課題

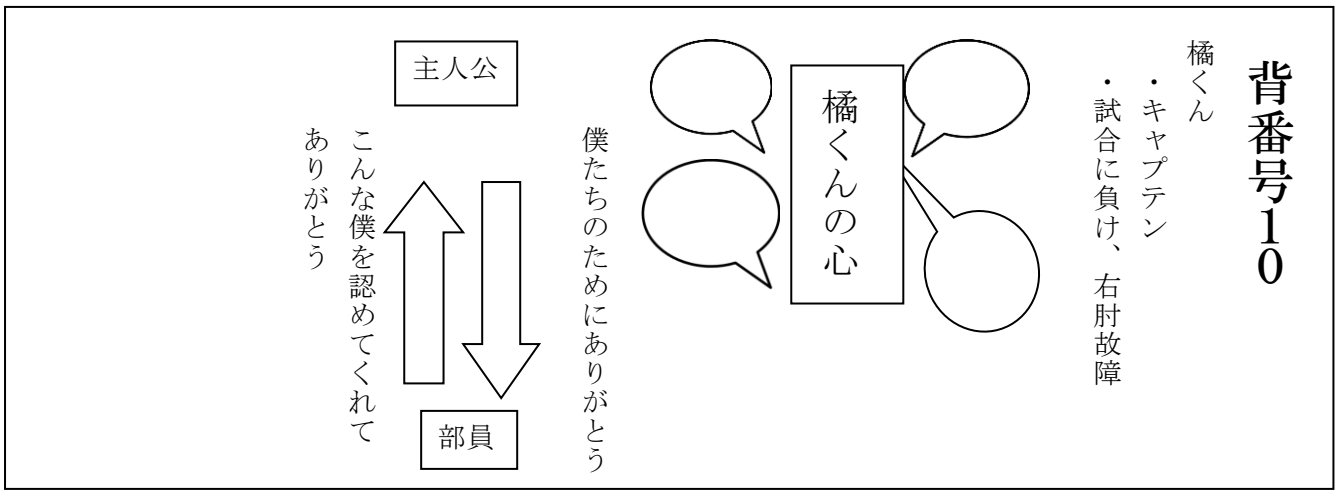
（成果）・キーワードを設置することで評価がしやすかった。

・感想も同じ意見だけでなく、自分の立場ならどうかを考えて書く生徒が増えた。

・生徒が書いた感想を学級通信で伝えることで、その後の道徳でも感想を書く生徒が増えた。

（課題）・生徒がねらいに対して深く考えられるように、伝え方を考えて授業に臨む必要がある。

◆**評価に用いた資料サンプル**　（板書計画）



実践校名（岸和田市立土生中学校）

◆**実施学年**　（３年）

◆**評価を位置づけた授業実践の分析**

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

評価場面：中心発問を中心とした発表
　　ワークシートの記入

評価方法：発表及び、ワークシートへの記入

評価：発表やワークシートの記述の中に、「感謝」、「おかげ」、「支えが合ったから」などのキーワードがあるか。

中心発問に対する生徒の発言は、「周りから認められてうれしかった。」、「父親や、チームメイトに感謝している。」などがあった。しかし、「最後まで諦めないでよかった。」、「努力は報われる。」などの発言のほうが多く見られた。生徒に発言をさせていく中で、「努力」というキーワードを出した生徒に対して、「なぜ、努力できたのか。」などの追質問をしていくことで、「努力できたのは、何のおかげか。」ということに気づかせることができたと思う。

○成果と課題

成果：キーワードを設定することにより、客観的に授業の評価がしやすかった。

課題：キーワードを意識しすぎて、生徒の意見を尊重していない場面もあった。また、キーワードとは関係のない発言でも、良い発言をした生徒、しっかりと考えている生徒に対して、どのように評価していくかを考えていかなければならない。

実践校名（岸和田市立野村中学校）

◆**実施学年**　（３年）

◆**評価を位置づけた授業実践の分析**

○評価の実際（評価した子どもの姿や、それをもとに行った支援）

（場面）　中心発問をとおして
（方法）　ワークシートへの記述及び、発表
　　子どもの記述・様子
（評価）
　ねらいを達成できていると判断したもの
　　⇒周りの人々の善意や支えに感謝し、なおかつ、それにこたえようとする主人公の気持ちに関する記述や発言がある。

中心発問「深々と頭を下げながら、心の中で『僕』はどんなことを思っているだろう。」に対しての発言、様子、内容から、「認められてうれしかった。」、「認めてくれてありがとう。」、「よかった。」、「うれしい。」、「感謝している。」という発言が多数あった。「感謝」や「ありがとう」というキーワードが出たことについては良かったが、感謝の気持ちをどう表していくのかという点で、もう少し深める必要があった。しかし、10 人程度の子どもたちに発表をさせる中で、3 名程度ではあったが、「けがをして試合には出られないのに 80 人の中でベンチ入れてもらったからには、チームの一番近くで応援してチームを支え続けないといけない。」「自分は出ることはできないけれど、できる事をしてチームを甲子園に連れていく。」など、周りの人々への感謝とともに、その思いに応えようとする意見も見られた。

○成果と課題

【成果】
　評価を位置づけて実践した結果、指導者側がねらいを持つことができ、子どもの発言や気づきを深め、道徳的心情を深める工夫を考えることができた。

【課題】
　授業の終末に実施する自己評価アンケート・ワークシートなどや、普段の子どもの様子から変化を見とるための持ち上がりの『道徳ファイル』や『道徳ノート』を作成することで、長期にわたる継続した評価物を残していく必要があると感じた。

実践校名（泉大津市立小津中学校）